

## 1902（明治35年）筑豊炭田の災害：筑豊石炭礦業史 年表の補遺

今野，孝  
九州大学経済学部学生

<https://doi.org/10.15017/13595>

---

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 4, pp.1-3, 1974-12-10. エネルギー史研究会  
バージョン：  
権利関係：

# 1902年（明治35年）筑豊炭田の災害

典拠：福岡日日新聞（453）

## —— 筑豊石炭礦業史年表の補遺 ——

今野 孝

### 1. 『筑豊石炭礦業史年表』の補遺について

先に刊行された『筑豊石炭礦業史年表』（以下『年表』と記す）の補遺を、1902年の炭坑災害に就て『福岡日日新聞』（以下『福日』）の記事によって行なってみた。『年表』には主要な災害が記載されているようであるが、当時の災害の傾向を掴むためにも、小規模な災害をも含めた数多くのものを拾ってみる必要があると思われる。

以上の見地から、補遺については、記事において事故原因等が明らかにされているものは、出来るだけこれを記載するようにした。

一応『年表』の分類に倣い、『年表』の「企業・労働・災害」の欄に入るものを「筑豊炭田」、同じく「全国石炭関係」の欄に入るものは、「その他の地域」として分けている。

ほとんどは補遺であるが、すでに『年表』に記載されているもののうち、『福日』を典拠としたもので、訂正すべきものや他の典拠資料の内容と相違があるものについては、〔 〕を付けて記載した。

またこれらは『福日』の記事のみによるものであり、事実と一致しているかどうかの検討はしていない。特に他典拠資料との相違に就ては、どちらが正しいという性格のものではなく、ただ並記するにとどまるものであることをお断りしておく。

### 2. 『福岡日日新聞』と『門司新報』について

私が目を通した1902年に限って言えば、炭坑災害に関する限り、『門司新報』より『福日』の方が記事の数も多く、小規模の災害まで載せているようである。『門司新報』にはむしろ、これまであまり触れられなかった石炭関連産業における災害、例えば石炭仲仕の事故や石炭艀船や艀の沈没事故などが、よく報じられているようである。

災害に限らず記事の内容に就ては、両者一致するものもあれば相違しているものもある。しかし、両者の一致をもって事実を語っているとは断言できないのは勿論である。最後に、この点に関連して、当時の新聞の一側面をあらわしていると思われる興味ある新聞の投書を御紹介しておこう。新聞に限らず、資料批判の重要性を示唆しているといえるのではないだろうか。

『門司新報』 明治36年3月13日 五面

「寸天尺地（投書自由）」

近来小倉の記事は、貴紙も福日も九日も関門も皆な同じ事ばかりで、中には文句も一字を違へぬ様に掲げてあるが、アレは何故ですか。アンナ通信なら、僕に月々四五円づゝ下されば、謄写版にして四社でも五社でも十社でも百社でも引受けます。ソレでは通信員のナンのといふ肩書に対して不忠実でせう。（トラスト）

筑豊炭田

1.28	第三金谷炭坑（遠賀郡水巻村）第一坑、ガス爆発、軽傷2名
1.30	行松第二坑（田川郡弓削田村）、ガス爆発、大火傷1名
3. 3	小松ヶ浦八尺炭坑（田川郡弓削田村）、ガス爆発、火傷1名
3. 7	赤池第二坑（田川郡上野村）、坑内火災、死者10名〔3.11付記事で10名に訂正されている〕
3. 8	嘉穂郡笠松村大字鯉田築莫谷の古坑（末原信太郎所有）で発火しているのを発見
3.10	三井田川本坑、炭車による圧死1名
3.20	三井大藪炭坑、左三片、安全灯の火よりガス誘発、大火傷1名
3.22	桐野炭坑（鞍手郡宮田村）、マイト点火用の線香の火よりガス爆発、死傷者なし
3.28	鳳凰炭坑（遠賀郡）、左四片でガス爆発、大火傷1名
4.12	蘇我炭坑第二坑（田川郡川崎村）、天井墜落、死亡1名
5.24	三井川田本坑内、仕操夫が通行中天井墜落、死亡1名
5.27	小松第二坑四尺坑（田川郡弓削田村）、右四片盤、採炭中天井墜落、重傷1名
5.28	大任炭坑（田川郡川崎村）、十三片附近、採炭中天井頑炭墜落、死亡1名
5.29	三井田川本坑、三尺右四片切羽を担籠で運炭中天井墜落、死亡1名
6. 3	小倉炭坑（企救郡足立村）、禁止されていた炭車に乗って昇坑中の坑内大工、振落され死亡
6. 3	岩下八尺坑（田川郡弓削田村）、右一片盤一卸、採炭中硬石崩落、重傷1名
6.21	三井伊田炭坑、昇坑中の炭車のピンが切断し逆走したため棹取夫1名圧死
6.21	豊国炭坑（田川郡弓削田村）、八片で炭柱払中に天井崩落、死亡1名
6.25	金田炭坑（田川郡糸田村）、二十四片から二十三片への車道踏切通行中、炭車に碾れ死亡1名、重傷1名
6.29	春日炭坑の坑夫3名、新長者原七神炭坑本坑（井上重蒼所有）第三右十八片の空洞に隠していた荷棒を取りに行きカンテラの火よりガス爆発、重傷3名
6.29	大隈炭坑（粕屋郡大川村）、坑口より四十間余の地点で地盤陥落、一名生理、救出
7. 7	赤池炭坑第二坑、巻揚を待っていた炭車に迎箱が衝突脱線、休憩中の坑夫1名死亡
7. 7	本洞炭坑（田川郡勝野村）、汽罐9個（1888年 大阪北区山田製罐所製造）のうち第1号罐破裂、職工1名死亡、重傷2名
7.17	第三金谷炭坑第二坑、右十三片十一上りを通行中、カンテラの火よりガス爆発、坑夫1名重傷
7.17	三井田川本坑、粹入換工事中の坑夫、炭車に碾れて1名死亡
7.20	小倉炭坑、天井陥落、休憩中の坑夫1名死亡

7.2.6	三井伊田炭坑、火薬を使用して採炭中天井の岩石墜落、死亡1名
8.3.1	金田炭坑、マイト使用の際、炭車の鎖が切れて三台急降下、1名圧死、重軽傷6名
9.1.5	三井伊田炭坑、左二十二片、天井崩落の復旧作業中再び岩石が墜落、重傷1名
9.1.9	三井伊田炭坑、左三十二片、採炭中天井墜落、死亡1名
9.2.4	三井田川本坑、左真卸で採炭中天井墜落、死亡1名
1.0.2.1	赤池炭坑、採炭中天井墜落、重傷1名
1.0.2.8	本洞炭坑、九金片盤付近でカンテラの火よりガス爆発、重傷1名、軽傷2名
1.0.2.8	扇の浦炭坑（遠賀郡長津村）、立坑内で天井墜落、死亡1名、重傷1名
1.0.2.9	津波黒炭坑釜ヶ谷坑（粕屋郡勢門村）、天井墜落、負傷1名
1.1.6	金剛炭坑（鞍手郡木屋瀬町）、1.0.1.5の鉱山監督署の命令による改築工事中の竪坑、地表より約三十尺の部分陥落、蒸気管2本、揚水管2本挫折
1.1.1.0	豊州炭坑………〔29日鎮火とあるのは453では確認できない〕
1.1.1.5	小倉炭坑、坑内火災、勘定日のため坑夫は休業中、機関手1名軽傷、四坑中三坑を密閉して本坑より注水、16日全坑口密閉
1.1.2.5	藤棚炭坑（鞍手郡下境村）、坑口改修中天井陥落のために坑口閉塞、同日中に復旧、死傷なし
1.1.2.7	豊州炭坑三尺坑、岩石脱落、2名圧死
1.2.1.1	豊国炭坑、横坑入口より十六間余の所で天井陥落のため坑口閉塞、一時391名が閉込められたが同日中に全員無事出坑
1.2.1.1	長者原炭坑（粕屋郡大川村）、坑内溜水を浚渫中、硝子灯より引火ガス爆発、2名火傷
1.2.1.4	植木炭坑（粕屋郡須恵村）、ガス爆発、重傷2名
1.2.1.5	植木炭坑、硬石墜落、重傷2名
1.2.1.6	大任炭坑、又卸九片で採炭中下坑してきた炭車に挟まれ坑夫2名重傷

その他の地域

2.2.0	三菱高島、ガス爆発、……〔2.2.3付記事によれば死亡9名、重傷2名、軽傷8名〕
3.1.8	大畑炭坑（山口県厚狭郡）、天井墜落、死亡24名
9.3.0	矢代町炭坑（佐賀県東松浦郡）、ガス爆発、火傷1名
1.0.1.3	東山炭坑（早良郡西新町）、天井墜落、死亡1名、軽傷1名
1.2.1.8	礼母炭坑（佐賀県杵島郡）、炭車転倒、重傷1名
1.2.2.2	三池宮の原坑、天井墜落、死亡2名、軽傷3名